

邊津芳次さんのザ・コースマップ

富士の絶景楽しむ峠越え(静岡市清水区) 7.3Kmのコース



コース詳細

青空である。前日の風雨が、うそみたい。朝日がまぶしい。ツイている、と思った。

富士山絶景への道・薩埵峠は興津町から、と決めている。峠を越えたら富士山が、眼前にどーんと、だから。

午前11時。JR興津駅に集合、出発と友人に呼びかけていた。東海道十七番目の宿場町はのどかな佇まい。ペコちゃんの不二家店が陽を浴びてパツと明るい。気温16度。ジャンパーは脱いだ。

駅前から右に行けば東海道屈指の名刹清見寺。国の名勝指定の庭園には家康ゆかりの臥龍梅、五百羅漢などの指定文化財がある。さらに足をのぼすと坐漁荘。明治の元老西園寺公望の別荘跡がある。しかし、きょうのように晴れ渡った日は富士山である。

駅前の道をまっすぐに歩き始めた。すぐに国道1号。左折する。旧街道である。火の見櫓が残っている。国道52号を横切ったあたりから歩道がなくなる。興津川の橋を渡るまで車に注意。バイパスと合流しそうなところで左に折れて踏切へ。渡ると薩埵峠の案内板がある。登りの細い坂道。左に海岸寺。登りきったあたりから道が広がる。



薩埵峠への曲がり角。右角に道標

右にみかん山。たわわに、豊かな実り。景色に見とれて道に迷うところだった。十字路を右折して中道へ。標識があるが、うっかりすると通り過ぎてしまう。左側に温室が建ち並んでいるので目印になる。ゆるい坂を登ると墓地。トイレがあって、無人の即売棚にみかんが並んでいた。ポンカン。甘さが評判の特産品だ。一袋200円。評判通りの甘みでのどを潤した。

墓地の小道を通り抜けると急坂になる。箱根峠、鈴鹿峠と並んで東海道の三大難所とされ、往時の朝鮮通信使も難行苦行した伝えられる道だが、今は木製の階段が整備されていて、楽に歩けた。前日の雨でぬかるんだ山道も普通のウォーキングシューズで問題なかった。ありがたいことである。

峠を越えた。12時ちょうど。眼下に紺碧の駿河湾。遠景に伊豆の山々。街道一の名勝地の始まりだ、と友人たちに解説した。あれが達磨山、半島の先端が波勝崎、お椀を伏せたような山が大室山。沼津アルプスも見える。

12時10分。どーんと、富士山。「すごいつ」。シャッターを切りまくり、歩き始めても目の前に富士山。また富士山。裾野は「白雪が融けて流れる」(ノーエ節)三島の方へ。薩埵越えは、富士山が進行方向に見られる東下りに限る、と解説役は胸を張った。



峠を越えたら富士山の絶景が眼前に

トイレのある駐車場に着いた。昼食を、と思ったが、そこは乗用車、タクシー、オートバイであふれていた。由比町からは車道があって車が行き交う。やっぱり興津からの東下りが正解だった。

五十三次十六番の由比は旧街道筋の町並みが残されている。なまこ壁の古い家などが道の両側にひっそりと軒を連らねていて、本陣とか脇本陣とかの札がかかっている旧家もある。この町の名物は、なんといっても桜えび。駿河湾でしかとれない海老である。生で、釜上げ、かき揚げで。お酒にまことに好く合う。午後3時。看板にひかれて、食事処「さった路」で乾杯した。

交通情報

★鉄道 JR東海道線の興津駅か由比駅で下車。

マイカー 由比町側から車道あり。峠近くに無料駐車場。

★耳より情報 食事、買い物は由比町が便利。由比駅近くの商店軒先に置いてある「ゆい自慢あじ自慢」のちらしマップが役立つ。

(朝日新聞の役立つ無料会員サービス「アスパラクラブ」から転載)